

みちのく庄内・最上の森・里・川・海！

あるもの探しから始まる暮らしと農山漁村づくり

NPO 法人 里の自然文化共育研究所 専務理事  
出川 真也

1、 農山漁村の宝ものとは

- ・地域の自然・生活文化が宝もの。

それは住民の知恵と技術によって成り立っている。

2、 地域を見つめなおす～おじいちゃん・おばあちゃん・ヨソモンの力が必要～

- ・地域の宝もの（地域資源）は地元住民が担うが、地元だけでは気付きにくいもの。外部者の目線の違いを活用しながら調べる、見つめなおす。

3、 調べたことを元に地域づくり計画を住民が作り出すために

- (1)ヨソモンの目線の違いを活用した地元学調査とヴィジョン作り
- (2)日常生活に立脚したプログラムとカリキュラム作り
- (3)里の何気ない「当たり前」の素材を力づける
- (4)人材育成（担い手育成）

4、 広域連携～NPO 法人 里の自然文化共育研究所の「森里川海共育プラン」～

- (1)庄内の漁村農村の産物と最上の山村の産物を交流した産品開発
- (2)庄内と最上をつないだ森里川海エコツーリズムのプログラム作り